

令和6年度 自己評価書

令和7年1月17日(金)
学校法人アソカ学園朝田幼稚園

1 幼稚園の教育目標

子どもの持っている〈視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚・言葉・身体・心〉の全感覚を開き、正しく導き、周りに対する意識をより感性豊かに広げていく道が《アソカ学園の教育の中心》です。個々を認め、子どもの創造力・個性を伸ばしていきます。
【健康なからだ・おもいよりの心・たくましい創造力】

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

様々な体験・経験を通して学びや育ちに繋げていくことを念頭に、一人ひとりの個性を大切に保育を展開していく。
昨年同様、言葉・表情など、直接的な関りに意識を向け、子どもたち自らが考え、選択し、行動していく“子どもの主体性”を意識してきた。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	
① 保育の計画性	アソカ学園の教育方針及び理念、教育課程を職員一人ひとりが念頭に置き、ねらいを持った保育を展開することを心掛けた。また、日々の保育や行事を「点」として捉えていくのではなく「線」として繋がりのある保育を引き続き意識し「過程」を大切に取り組んできた。	B
② 保育のあり方 幼児への対応	各学年・各クラス、子どもたちの様子や状況を職員間で共有し、子どもたち一人ひとりが安心して生活できる環境を意識してきた。また、その子にあった言葉掛けを心掛け、子どもたちの発想や表現を肯定する、認めることで子どもの想いを尊重した保育を展開した。	B
③ 教師としての資質 能力、適正等	教師としての役割及び、組織の一員としての意識を高め、資質向上に努めている。引き続き、教師としての姿勢、知識や言葉掛け等、更なる向上が必要と感じる。	B
④ 保護者への対応	大きな行事毎に「保護者向けアンケート」を実施し、意見や要望について職員で共通理解し改善に努めている。保護者も、園に対して協調的であるが、園児のことや保護者から見えにくい部分など日頃からのコミュニケーションや細かな配慮を今後も継続的に体现していく必要がある。	B
⑤ 地域の自然や社会 との関わり	施設との連携・協力のもと、園外保育の実施、小学校見学や、ボランティアなどを募り中高生とのふれあいの機会も増やしてきた。また、今年度は外部の専門職の方（シェフや大道芸人等）をお呼びし、交流する機会を積極的に増やしてきた。	A
⑥ 研修と研究	ここ数年、自園にて園内研修を積極的に行ってきた。その結果、日頃の保育やあそびの幅に広がりが見られる。また、今年度は浜松市私立幼稚園協会内の研修園としても研修を行い、こちらも資質向上に繋がった。	A
⑦ 外部アンケート	回答率は80.6% 回答内容も幼稚園の現状に満足しているものが多かった。また、前述したように例年同様「保護者向けアンケート」も行い、できる範囲改善に努めてきた。結果として良い変化が見られる。反対に、様々な環境下で園児同士の関わりが多く見られる中、子どもたちが安心できる環境を継続して目指し努力していく必要がある。	B

* 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

幼稚園生活を通じて様々な体験・経験から子どもたち一人ひとりの個性を大切に、学びや育ちに繋げていく保育を展開してきた。さらに昨年同様、子どもにかかる言葉や表情など、直接的な関りの中に丁寧さも意識してきた。また、子どもたち自らが考え、選択し、行動していく“子どもの主体性”は継続的に念頭に置き進めてきた。その中で今年度特に課題と感じたことは大きく2点。1つ目が、保護者との円滑なコミュニケーション。子どもの様子や成長など、情報共有を丁寧に行う必要性をこの時代だからこそ改めて感じる。また、家庭と園が一体となって子どもの発達を支えていくことで、信頼関係の構築だけでなく、安心できる環境の強化も必要だと感じる。2つ目が、現状よりも日々の保育の見える化を図る。行事やイベントなどはアプリ配信や業者に依頼して撮影・販売し、お知らせしてきたが、普段の様子や園の想いなどの配信は少なく感じる。今以上にお知らせすることで、園で行っている事だけでなく家庭との教育観の共有も図れると感じる。以上2点と今まで同様、日常の「楽しい!」を探究し、「またやりたい」「もっとやりたい」という純粋な意欲をあそびを通して育み、個性・自信を生むきっかけづくりを大切に、アソカ学園の掲げる「あそびから創造へ」を体现していく。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程や子どもとの関りに対して職員の共通理解・共有の強化	園児の情報や園生活の中で起こった出来事に関して、職員同士の共有を今年度は特に意識して取り組んできた。こちらは継続的に行っていくが、保護者への連絡や内容の共有をする際に難しさを感じることも多々あった。働き方の改善が行われている中で、時間の使い方や仕事の内容の見直しをしたうえで抜本的にとらえ改善する必要がある。
ICT及び機器の活用・応用・改善	ICTの導入し数年。多方面で保育の充実、業務の効率化に繋がっていると感じる。引き続き日々の保育の様子を写真やアプリを通じて「見える化」を図るなど改善を行いながら資質向上を図る。
子育て家庭、未就園児など充実を図る	全国的に出生率の低下が著しい昨今。地域の子どもや親同士の交流の場も必要と感じる。また、子育て中の親御さんが安心して遊びに来れるような環境だけでなく、些細なことでも相談できる場も大切だと感じる。現在、未就園児向けの親子交流サークル「キッズハウス」を週に1度開催しているが、0歳、1歳など幅広い年齢の子が交流できる環境も整えていきたい。

令和6年度 学校関係者評価書

令和7年2月14日(金)
学校法人アソカ学園 朝田幼稚園

1 幼稚園の教育目標

子どもの持っている〈視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚・言葉・身体・心〉の全感覚を開き、正しく導き、周りに対する意識をより感性豊かに広げていく道が「アソカ学園の教育の中心」です。個々を認め、子どもの創造力・個性を伸ばしていく【健康なからだ・おもいよりの心・たくましい創造力】

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

様々な体験・経験を通して学びや育ちに繋げていくことを念頭に、一人ひとりの個性を大切に保育を展開していく。
昨年同様、言葉・表情など、直接的な関りに意識を向け、子どもたち自らが考え、選択し、行動していく“子どもの主体性”を意識してきた。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
①保育の計画性	アソカ学園の教育方針及び理念、教育課程を職員一人ひとりが念頭に置き、ねらいを持った保育を展開することを心掛けた。また、日々の保育や行事を「点」として捉えていくのではなく「線」として繋がりのある保育を引き続き意識し「過程」を大切に取り組んできた。	繋がりのある保育で過程を大切にすることはよいが、それが遊びの延長で終わることがないようにしてほしいと思います。特にお遊戯会では星組さんだけでも少しチャレンジしたんだと感じる姿を見てみたかった。（楽器の種類やダンスなど）今年度は行事が集中している月があり大変だったのでもう少し分散し、時間なども半月程前には教えてほしいです。
②保育のあり方 幼児への対応	各学年・各クラス、子どもたちの様子や状況を職員間で共有し、子どもたち一人ひとりが安心して生活できる環境を意識してきた。また、その子にあった言葉掛けを心掛け、子どもたちの発想や表現を肯定する、認めることで子どもの想いを尊重した保育を展開した。	職員全員が子どもたちをよく見てくれていることは感じますが、共有に関してはもう少し徹底してほしいです。自由参観日や園庭遊びボランティアなどを設けて普段の子どもたちの様子も見てみたいですね。個々に合ったレベルで挑戦できることも増やしてみたいです。夏まつりはやはり全体で開催して思いきり楽しんでほしいと感じます。
③教師としての資質 能力、適正等	教師としての役割及び、組織の一員としての意識を高め、資質向上に努めている。引き続き、教師としての姿勢、知識や言葉掛け等、更なる向上が必要と感じる。	配慮が必要な子どもへの接し方などの向上に引き続き努めていただきたいです。受け入れるのなら専門の職員の増員、できれば職員ほぼ全員が対応可能な知識を得られる機会も設けてください。
④保護者への対応	大きな行事毎に「保護者向けアンケート」を実施し、意見や要望について職員で共通理解し改善に努めている。保護者も、園に対して協調的であるが、園児のことや保護者から見にくい部分など日頃からのコミュニケーションや細かな配慮を今後も継続的に実現していく必要がある。	大きな行事では準備や手伝いを通して園と保護者のコミュニケーションをはかれると思うのもっとお願いしてみてもいいのではないのでしょうか。配慮しすぎていて関わり方や伝え方が難点です。園へ来て相談しやすい雰囲気をもっと伝わると良いです。
⑤地域の自然や 社会との関わり	施設との連携・協力のもと、園外保育の実施、小学校見学や、ボランティアなどを募り中高生とのふれあいの機会も増やしてきた。また、今年度は外部の専門職の方（シェフや大道芸人等）をお呼びし、交流する機会を積極的に増やしてきた。	子どもたちにとって新しい経験・体験をこれからも増やして欲しいです。昔の遊びや古い楽器などに触れられるのも良いと思います。地域の方はバザーの復活を望んでいます。キッズハウスや四角板で園の特色（行事のことや園でできる習い事）をもっと発信してみてもどうでしょうか。在園家庭の未就学児へいつでも遊びに来てよいことの周知の強化を願います。
⑥研修と研究	ここ数年、自園にて園内研修を積極的に行ってきた。その結果、日頃の保育やあそびの幅に広がりが見られる。また、今年度は浜松市私立幼稚園協会内の研修園としても研修を行い、こちらも資質向上に繋がった。	あそびに対しての研修は十分されていることがよく伝わってきています。これからは、子どもたちを守るために災害（被災）や配慮が必要な子どもに対しての研修を行っていただき、職員全員が共通の知識を得てほしいと思います。
⑦外部アンケート	回答率は80.6%。回答内容も幼稚園の現状に満足しているものが多かった。また、前述したように例年同様「保護者向けアンケート」も行い、できる範囲改善に努めてきた。結果として良い変化が見られる。反対に、様々な環境下で園児同士の関わりが多く見られる中、子どもたちが安心して環境を継続して目指し努力していく必要がある。	行事が終わると子どもたちと帰宅し機嫌だしくしているため、翌日の朝など少し時間をおいて遊んでほしいです。（できれば直後と半日後の2回とか）

※結果の表示方法
A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

幼稚園生活を通じて様々な体験・経験から子どもたち一人ひとりの個性を大切に、学びや育ちに繋げていく保育を展開してきた。さらに昨年同様、子どもにかかる言葉や表情など、直接的な関りの中に丁寧さも意識してきた。また、子どもたち自らが考え、選択し、行動していく“子どもの主体性”は継続的に念頭に置き進めてきた。その中で今年度特に課題と感じたことは大きく2点。1つ目が、保護者との円滑なコミュニケーション。子どもの様子や成長など、情報共有を丁寧に行う必要性をこの時代だからこそ改めて感じる。また、家庭と園が一体となって子どもの発達を支えていくことで、信頼関係の構築だけでなく、安心できる環境の強化も必要だと感じる。2つ目が、現状よりも日々の保育の見える化を図る。行事やイベントなどはアプリ配信や業者に依頼して撮影・販売し、お知らせしてきたが、普段の様子や園の想いなどの配信は少なく感じる。今以上にお知らせすることで、園で行っている事だけでなく家庭との教育観の共有も図れると感じる。以上2点と今まで同様、日常的「楽しい！」を探索し、「またやりたい」「もっとやりたい」という純粋な意欲をあそびを通して育み、個性・自信を生むきっかけづくりを大切に、アソカ学園の掲げる「あそびから創造へ」を表現していく。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程や子どもとの関りに対して職員の共通理解・共有の強化	園児の情報や園生活の中で起こった出来事に関して、職員同士の共有を今年度は特に意識して取り組んできた。こちらは継続的にやっていくが、保護者への連絡や内容の共有をする際に難しさを感じることも多々あった。働き方の改善が行われている中で、時間の使い方や仕事の内容の見直しをしたうえで抜本的にとらえ改善する必要がある。
ICT及び機器の活用・応用・改善	ICTの導入し数年。多方面で保育の充実、業務の効率化に繋がっていると感じる。引き続き日々の保育の様子を写真やアプリを通じて「見える化」を図るなど改善を行いながら資質向上を図る。
子育て家庭、未就園児の充実を図る	全国的に出生率の低下が著しい昨今。地域の子どもや親同士の交流の場も必要と感じる。また、子育て中の親御さんが安心して遊びに来れるような環境だけでなく、些細なことでも相談できる場も大切だと感じる。現在、未就園児向けの親子交流サークル「キッズハウス」を週に1度開催しているが、0歳、1歳など幅広い年齢の子が交流できる環境も整えていきたい。

6 学校関係からのコメント

教育目標のやと、のびのびと子どもたちが過ごしていると感じています。主体性を意識されていることもわかります。しかし、私立ならではの質の高い教育やもう少しレベルの高い子どもたちの姿を期待している保護者も少なくありません。保育や行事の過程を大切にしたい一方で年長児にはできる、できないはあるかもしれませんが、少し難しくしたり複雑にしたりすることに挑戦した姿も見たいです。進学に向けて線が繋がっていくように厳しさも取り入れていただきたいです。「見える化」の取り組みは保護者にとって楽しみとなっています。ですが、販売写真や配信写真の偏りが気になる方が多いです。iPadでクラスごとに撮った写真がクラスごとで見られるような機会をもっと増えたいです。（学年特別号ではなくクラス特引号とか）、また、四角板などで地域の方へも園の様子を発信してみてもどうでしょうか。未就学児向けの発信も地域だけでなく在園家庭にももっとアピールし、お友達などと気軽に遊びに来てもらえる雰囲気できると良いと思います。朝田幼稚園に入ることによって経験できることに特別感を感じてもらえるような発信をしていかなければいけないと思います。卒園児・家庭・地域の方が参加できるようなことも増えていくと良いと思います。

令和6年度 自己評価書

令和6年12月23日
アソカ学園 駅南幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○ わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○ 望ましい生活習慣の身についた子に
○ 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○ 皆と力を合わせ取り組んでいく子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組み状況	自己評価
① 保育の計画性	指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。活動を計画する際、前年度の反省をもとに、子どもたちの成長と環境に適した保育を考え、相談しながら進めている。また、各クラス子どもの興味があるもの、取り組みたいことを常に捉え、時期や成長に合わせたの保育を考え取り組むよう心掛けている。今後もさらに研修を重ね、活動内容を考えていきたい。	B
②保育のあり方 幼児への対応	今年度は、子どもたちが興味を持ち取り組んでいることをきっかけに、活動を考え、一人ひとりの援助の仕方、声の掛け方等職員で日々検討している。活動が終わった際には、「育てたい10の力」のどこに力を入れたかを確認し、次の活動につなげている。また、興味を引き出すきっかけとして、折り紙や制作、サーキットあそびなど園内のあちこちに自由に活動できるコーナーを用意し、運動、制作、表現あそびなど、様々な活動を自分たちで発展していけるよう環境づくりを行っている。	A
③教師としての資質 能力、適性等	アソカ学園の教育コーディネーターと共に、アソカ学園の教育活動の見直しや、今後の社会に向けて、よりよい保育を考え、勉強会や意見交換を行っている。今後は先生それぞれ得意分野の研究を進め、保育に取り入れたり、他の先生に提案をしたりして特技を活かし、保育の質を高め合っていきたい。	A
④保護者への対応	保護者への対応は、各家庭によってどこまでを求めるかということに大きな差がある中、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いて、日々の取り組みを考えていくようにしている。保護者の意見、要望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ学園で話し合い、模索しながら行っている。今後も状況に応じた臨機応変な対応を考えていきたい。 また月ごとに保育の写真を園内に掲示し、クラス、学年、園での活動の様子を伝えている。ホームページも学期に2回程度更新しているが、今後も内容、時期を検討し充実させていきたい。	B
⑤地域の自然や地域 との関わり	毎月幼稚園バスに乗って、アソカ学園の他幼稚園児との交流や、農園での野菜の収穫、市運営の施設（科学館、子ども館など）に出かけている。また、カレーパーティーの際、父母の会の発案でインド国籍の保護者にインドカレーを作ってもらい、みんなでインドカレーの味見をしたり、匂いを嗅いだりして食の「違い」を体験した。また年長児が竜禅寺小学校や地域の介護センターを訪問したり、南部中学校の生徒が体験学習に來たりして、地域交流を進めることができた。今後も活動内容を検討し、体験活動を増やしていきたい。	A
⑥研修と研究	毎日のクラス活動が研修であると共に、学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。日々の活動の指導案作成にあたり、「幼児期に育てたい10の力」について、先生一人一人が考え重点目標を決め、取り組んでいる。また、年次回の学年会や、アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としてのスキルアップを図っている。	A
⑦外部アンケート	回答内容は概ね良好だが、確認することで課題も見つけることができるため、今後の保育に役立て、より保護者との連携を深めていけるよう、職員全員で考えていきたい。	A

※ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
 C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

幼稚園という集団での日々の教育の中でも、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりのワクワク感や充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。また、子どもたちの五感を刺激し、より好奇心を引き出す環境を作ることを人的環境、物的環境の両面から考え、試行錯誤しながら進めていった。今では子どもたちも自分で作った折り紙や制作物などを自ら披露したり、ダンスや体操では、舞台を作っているいろいろな曲を踊ったり、身近な楽器で友だちと合奏を楽しんだりする姿があちこちで見られるようになった。今後も子どもたちの好奇心を刺激し、自ら取り組んでいく環境を考えていきたい。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
丈夫なからだに	年間を通しての手洗い・うがいの指導をこまめに行い、部屋の換気や掃除、消毒に取り組んだ。 朝や帰りの自由あそびでは、なわとび、ボールあそび、鬼ごっこなど、身体を楽しく動かすあそびを呼びかけ、子どもたちが自ら運動あそびに取り組めるよう、環境作りや援助を工夫していった。また雨の日や暑さや寒さが厳しい日でも、楽しく体を動かせるよう、ホールでサーキットあそびなども行った。
社会・地域とのかかわり	今年度は、湖南高校生の職場体験や中学生の体験学習、小学校や介護センターへの訪問など、が交流を進めることができた。またアソカ農園での野菜収穫や、アソカ学園の他幼稚園を訪問し交流を深めたり、公園や市の施設に出かけたりして、各学年毎月遠足に出掛け、多くの体験をすることができた。 交通教室では、年長の子どもたちが地域を歩く体験も取り入れ、小学校へとつなげている。今後はさらに近隣の小学校、中学校や施設など地域との関わりを深め、みんなで作り子どもたちを育てていく社会を目指していきたい。
安全管理	園庭の遊具など、100パーセントけがをしないというものではないが、子どもの身体の発達においては大切なもの。幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全員で認識し、確認しあっていく。 園バスにドライブレコーダー、緊急ベルを設置し、乗務員の毎朝の健康観察やバスキャッチを中心とした園児の登降園状況を確認している。 災害に備え、毎月1回避難訓練を行っている。地震、火事、川の氾濫など想定を変え取り組み、職員全員で改善方法を考えたり、スムーズな避難を提案したりして、園全体で取り組んでいる。

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。

○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○ わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○ 望ましい生活習慣の身についた子に

○ 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○ 皆と力を合わせ取り組んでいく子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
① 保育の計画性	指導計画を毎年見直し、毎日、指導案を立て保育に取り組んでいる。活動を計画する際、前年度の反省をもとに、子どもたちの成長と環境に適した保育を考え、相談しながら進めている。また、各クラス子どもの興味があるもの、取り組みたいことを常に捉え、時期や成長に合わせての保育を考え取り組むよう心掛けている。今後もさらに研修を重ね、活動内容を考えていきたい。	・いろいろな行事や6ヶ園での関わりなどが多く、子どもたちにとって良い経験となっている。また行事も駅南幼稚園ならではの取り組みに交感感がある。 ・環境は子どもにとって、とても大切だと思う。先生方がいろいろなところに子どもの好奇心を引き出す環境を考えていて、とても楽しい。
②保育のあり方 幼児への対応	今年度は、子どもたちが興味を持ち取り組んでいることをきっかけに、活動を考え、一人ひとりの援助の仕方、声の掛け方等職員で日々検討している。活動が終わった際には、「育てたい10の力」のどこに力を入れたかを確認し、次の活動につなげている。また、興味を引き出すきっかけとして、折り紙や制作、サーキットあそびなど園内のあちこちに自由に活動できるコーナーを用意し、運動、制作、表現あそびなど、様々な活動を自分たちで発展していけるよう環境づくりを行っている。	・こどもがそれぞれ自分で選択をしてあそぶことや活動に取り組んでいることがわかる。小さな自己決定が、自信や決断する経験となり、将来につながると思う。 ・小学校でも一人1台、タブレットを持つようになっていることで、自分で学ぶところを選んで学習を進めている。小さな自己決定や、活動への取り組みでの意見交換の経験が高学年になって、行事の中心として取り組み方や活動を考えていけるようになる。幼児期に自分で考えたり、選択したりして取り組むことは大切だと思う。
③師として資質、能力、適正等	アソカ学園の教育コーディネーターと共に、アソカ学園の教育活動の見直しや、今後の社会に向けて、よりよい保育を考え、勉強会や意見交換を行っている。今後は先生それぞれ得意分野の研究を進め、保育に取り入れれたり、他の先生に提案をしたりして特技を活かし、保育の質を高め合っていきたい。	・子どもたちが将来、生き生きと自分らしく生きていくことができるよう「子どもたちにとって何が大切か」を先生方が考えて活動を取り入れていることがわかる。
④保護者への対応	保護者への対応は、各家庭によってどこまでを求めるかということに大きな差がある中、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日々の家庭での様子を聞いて、日々の取り組みを考えていくようにしている。保護者の意見、要望も聞きながら、図でできることを職員、またはアソカ学園で話し合い、模索しながら行っている。今後も状況に応じた臨機応変な対応を考えていきたい。 また月ごとに保育の写真を園内に掲示し、クラス、学年、園での活動の様子を伝えている。ホームページも学期に2回年度更新しているが、今後も内容、時間を検討し充実させていきたい。	・お迎えのときに、子どもの様子を聞くことができるので、様子がよくわかる。担任だけでなく、いろいろな先生が見えてくれて、子どもの様子を伝えてくれるので、とても安心できる。 ・子どもたちの様子がわかる写真をもっと見たい。様子を知る機会として、幼稚園に掲示してある写真も飾った際には、連絡アプリなどで教えてほしい。 ・普段の様子写真なども販売してもらえると嬉しい。

※ 結果の表示方法

A 十分達成されている

C 取り組んでいるが成果が十分でない

B 達成されている

D 取り組みが不十分である

⑤地域の自然や 地域との関わり	毎月幼稚園バスに乗って、アソカ学園の他幼稚園児との交流や、農園での野菜の収穫、市運営の施設（科学館、子ども館など）に出かけている。また、カレーパーティーの際、父母の会の発案でインド国籍の保護者にインドカレーを作ってもらい、みんなでインドカレーの味見をしたり、匂いを嗅いだりして食の「違い」を体験した。また年長児が竜徳寺小学校や地域の介護センターを訪問したり、南部中学校の生徒が体験学習に来たりして、地域交流を進めることができた。今後も活動内容を検討し、体験活動を増や	B	・カレーパーティーのときに、インド人のお母さんにインドカレーを作ってくれたり、味見をしたり、匂いを嗅いだりしたこと、子どもたちにとっても、保護者にとってもお互い関わるよいきっかけとなった。 ・子供会の人数も減り、浜松まつりに参加する子どもも減ってきている。もちつきや豆まきなど、むかしからの行事やお祭りなどは大切にしていってほしい。	A
⑥研修と研究	毎日のクラス活動が研修であると共に、学年の枠を超えての意見交換や保育展開の相談などを積極的に行うことで、よりよい保育を目指している。日々の活動の指導案作成に当たり、「幼児期に育てたい10の力」について、先生一人一人が考え重点目標を決め、取り組んでいる。また、年次回の学年会や、アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としてのスキルアップを図っている。	A	・「おもちつき」や「豆まき」などの行事では、「子どもたちのために」という思いが伝わり、ありがたい。 ・アソカ学園は6ヶ園幼稚園があり、研修や話し合いがあることが、子どもの環境作りや保育につながっていると思う。	A
⑦外部アンケート	回答内容は概ね良好だが、確認することで課題も見つけることができるため、今後の保育に役立て、より保護者との連携を深めていけるよう、職員全員で考えていきたい。	A	・今年のアンケートを受けての評議委員会に参加したが、地域の方や小学校の先生と話せる機会があり、いろいろな情報や考え方がわかり良かった。	A

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

幼稚園という集団での日々の教育の中でも、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりのワクワク感や充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。また、子どもたちの五感を刺激し、より好奇心を引き出す環境を作ることを人的環境、物的環境の両面から考え、試行錯誤しながら進めていった。今では子どもたちも自分で作った折り紙や制作物などを自ら披露したり、ダンスや体操では、舞台を作っているいろいろな曲を踊ったり、身近な楽器で友だちと合奏を楽しんだりする姿があちこちで見られるようになった。今後も子どもたちの好奇心を刺激し、自ら取り組んでいく環境を考えていきたい。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	年間を通しての手洗い・うがいの指導をこまめに行い、部屋の換気や掃除、消毒に取り組んだ。 朝や帰りの自由あそびでは、なわとび、ボールあそび、鬼ごっこなど、身体を楽しく動かすあそびを呼びかけ、子どもたちが自ら運動あそびに取り組めるよう、環境作りや援助を工夫していった。また雨の日や雪や寒さが厳しい日でも、楽しく体を動かせるよう、ホールでサーキットあそびなども行った。
社会・地域とのかかわり	今年度は、湖南高校生の職場体験や中学生の体験学習、小学校や介護センターへの訪問など、が交流を進めることができた。またアソカ農園での野菜収穫や、アソカ学園の他幼稚園を訪問し交流を深めたり、公園や市の施設に出かけたりして、各学年毎月遠足に出掛け、多くの体験をすることができた。 交通教室では、年長の子どもたちが地域を歩く体験も取り入れ、小学校へとつなげている。今後はさらに近隣の小学校、中学校や施設など地域との関わりを深め、みんなで作り子どもたちを育てていく社会を目指していきたい。
安全管理	園庭の遊具など、100パーセントけがをしないというものではないが、子どもの身体の発達においては大切なもの。幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全員で認識し、確認しあっていく。 園バスにドライブレコーダー、緊急ベルを設置し、乗務員の毎朝の健康観察やバスキャッチを中心とした園児の登降園状況を確認している。 災害に備え、毎月1回避難訓練を行っている。地震、火事、川の氾濫など想定を変え取り組み、職員全員で改善方法を考えたり、スムーズな避難を提案したりして、園全体で取り組んでいる。

日本のよい伝統を守り、21世紀を豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。

＜健康なからだ＞ ＜おもいやりの心＞ ＜たくましい創造力＞

園での教育活動全体に対する考え方を統一することで、入園してから卒園するまでの子どもの育ちを保障し、教育内容と教職員の質の向上に更に努める。

⑥ 研修と研究	浜松私立幼稚園協会や静岡県私立幼稚園協会主催の研修に、個別参加をして、自らの視野をひろげようと努めた。反面、終礼の時間を利用して、他学年の枠を超えての意見交換などを、より積極的に展開していきたい。 年に数回だった学年会も回数が増え、アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としての資質を高める研究を重ねている。 夏の職員研修では、教務専任者を中心に実技や事例を元に話し合うことができた。	B
⑦ 外部アンケート	回答率は77.8%。前年度と比較し、若干回答率が下がった為、次回は回答率90%以上を維持したい。また課題も見つけることができるため、今後の保育について、回答結果を元に職員全員で考えていきたい。	/

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

幼稚園という集団での日々の教育の中において、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりの充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。保護者からの支援・協力により、行事や日々の活動も行うことができ、信頼関係の大切さをあらためて実感することができた。

課 題	具体的な取り組み方法
丈夫な身体に	体を動かす活動を中心に、外で元気にあそぶ時間を多く設けた。ボールあそびや、なわとび、リレーごっこ以外にも、様々なルールの鬼ごっこなど、どの学年も、子どもたちが自発的に体を動かして楽しむように取り組んだ。
社会・地域 とのかかわり	今年度も例年行っていた小学校との交流はできなかったが、中学生と高校生による保育体験は受け入れることができた。アソカ 6ヶ園の園庭での交流や、農園の野菜収穫等、学年ごとに園外に出かけた。
安全管理	幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全員で毎朝遊具のチェックしたり、認識し確認しあっている。 園バスに装備されているドライブレコーダーや、安全装置も有効に使いながら、職員間での安全認識会議を年度初めに強化していくようにしている。また、毎日、乗務員のアルコールチェックも行っている。 毎月の遊具点検や、定期的な防火用品の確認、中消防署による園舎点検などを行っている。

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自立ある望ましい教育を展開する。

○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

○ わかる力の芽・できる力の芽が育つ子に ○ 望ましい生活習慣の身についた子に

○ 思いやりがあり豊かな情操の持ち主に ○ 皆と力を合わせ我慢の心を持ち合わせる子に

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
① 保育の計画性	活動を計画する際、指導計画を毎年見直し、週案を立て、その日の子どもの様子を汲みつつ、保育に取り組んでいる。「幼児期に育てたい10の姿」を常に意識し、保育内容などに反映するよう、援助の仕方を再確認しながら取り組んでいる。今後も、子どもの様子に見合った活動内容を充実させていきたい。	新年度開始から、年間を通して、大きな行事や普段の活動など、ある程度バランス良く計画されていたように思う。近隣の学生さんを、誕生会などに呼んで、何か披露してもらうとかもあっていいのではないかな。
②保育のあり方 幼児への対応	子どもが自らの考えて活動やあそびを作り上げていくことを目指し、援助の仕方、声の掛け方等を学年間を中心に話し合っている。活動後には、立案や週案を通して、「育てたい10の姿」のどこに力を入れたかを確認し、次の活動につなげている。また特別な支援が必要な園児に対し、どのように応じていくか、キーンダーカウンセラーも交え、日々検討して	特別な支援が必要な子への対応を常に検討しているようで、その難しさを感じられる。学園の心理士であるキンダーカウンセラーが各園を回って見ているのは良いと思う。
③教師として資質、 能力、適正等	勤務専任の先生を交え、アソカ学園の教育活動の見直しや、よりよい保育を目指し、勉強会や意見交換を継続して行っている。進め方が定着していく中で、学園内の同じ学年の先生同士での意見交換も、積極的になり、その進め方にも変化をもたらせていくようになってきた。今後も、子どもたちに必要な力を育てるための、保育のあり方について、研究していきたい。	学園内での先生たちの勉強会のようなものが継続されているということが、大変良いと思う。
④保護者への対応	保護者への対応は、各家庭によってどこまでを求めるかというところに大きな差がある中、幼稚園としては送迎の際や、連絡ノート、電話等で保護者の質問や相談に対応すると共に子どもの成長を伝えたり、日頃の家庭での様子を聞いて、日々の取り組みを考えていくようにしている。ケガ等があった場合、即、連絡を入れることにもしている。保護者の意見、要望も聞きながら、園でできることを職員、またはアソカ全園で話し合いながら取り組んでいる。今後も状況に応じた臨機応変な対応を考えていきたい。	担任の先生以外の先生方も、話しかけてくれたりするので、園全体で子どもたちを見てあげることが、とても良くなる。
⑤地域の自然や 地域との関わり	今年度も、アソカ農園での野菜の収穫など、月に一度程度遠足等を計画し、地域や自然に触れるようにしている。また、父母の会企画のもと、役員さんが日を決めてボランティアを募り、子どもたちのあそびの援助を通して、交流を行っている。	地域との交流の場を作るのはなかなか難しいのではないかな。もっといろいろな所（外部）に遊びに行ったり、和地山公園に遊びに行くのもいいのではないかな。

⑥研修と研究	浜松私立幼稚園協会や静岡県私立幼稚園協会主催の研修に、個別参加をして、自らの視野をひろげようと努めた。反面、終礼の時間を利用して、他学年の枠を超えての意見交換などを、より積極的に展開していきたい。年に数回だった学年会も回数が増え、アソカ学園の先生全員で行う研修もあり、幼稚園教諭としての資質を高める研究を重ねている。夏の職員研修では、勤務専任者を中心に実技や事例を元に話し合うことができた。	B	上手に時間を作りながら、あると思われるが、先生方の研究、探求への取り組み姿は、日頃の保育にも表れているのではないかな。研修とは違うが、近隣の小、中学校、幼児教育のある大学などとの連携を取ったり、一緒に遊べる機会が持てる方がより良いのではないだろうか。	A
⑦外部アンケート	回答率は75.5%。前年度と比較し、若干回答率が下がった為、次回は回答率90%以上を維持したい。また課題も見つけることができるため、今後の保育について、職員全員で考えていきたい。			

※ 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている
C 取り組んでいるが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

幼稚園という集団での日々の教育の中において、子ども一人ひとりの成長を考えながら、その子なりの充実感が持てるよう保育を計画し、職員全員で話し合いながら保育を進めていくことができた。保護者からの支援・協力により、行事や日々の活動も行うことができ、信頼関係の大切さをあらためて実感することができた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
丈夫なからだに	体を動かす活動を中心に、外で元気にあそぶ時間を多く設けた。ボールあそびや、なわとび、リレーごっこ以外にも、様々なルールの鬼ごっこなど、どの学年も、子どもたちが自発的に体を動かして楽しむように取り組んだ。
社会・地域とのかかわり	今年度も例年行っていた小学校との交流はできなかったが、中学生と高校生による保育体験は受け入れることができた。アソカ6ヶ園の園庭での交流や、農園の野菜収穫等、学年ごとに園外に出かけた。
安全管理	幼稚園でのあそびが必ずしも安全なあそびに限られていないことを常に意識し、安全管理に努めるよう、職員全員で毎朝遊具のチェックしたり、認識し確認しあっている。園バスに装備されているドライブレコーダーや、安全装置も有効に使いながら、職員間での安全認識会議を年度初めに強化していくようにしている。また、毎日、乗務員のアルコールチェックも行っている。毎月の遊具点検や、定期的な防火用品の確認、中消防署による園舎点検などを行っている。

令和6年度 自己評価書

令和6年12月21日
アソカ学園 美波幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある
望ましい教育を展開する。

◇健康なからだ ◇おもいやりの心 ◇たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、『賢く・優しく・逞しく・朗らか』に
育つよう導く。その為に、教師は日常保育の環境構成や子どもへの関わり、保護者の
信頼を獲得できるよう、常に教師自身の保育力と人間力アップに努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取 組 状 況	自己評価
① 保育の計画性	コロナ禍前の日常保育や教育行事を取り戻しながら、見直し を含め、なお一層の良質な保育を実践した。	A
②保育のあり方 ・ 幼児への対応	健康視診や成長度合いを熟慮するために、教職員間の情報 共有に時間を十分取り、保育に努めた。	A
③教師として資質 能力、適正等	良質な保育運営を支える為の人間力（人間性と社会性）アッ プを心掛け、社会動向にも意識を向けながら保育に努めた。	A
④保護者への対応	コロナ禍前同様に参観会や教育行事等に来園してもらい、 教育活動に対する理解を得ることができた。	B
⑤地域の自然や 社会との関わり	同学園内同上、相互に園を訪問し園児との交流を持ってい る。教員も他園の様子に触れ研修の一助となっている。	B
⑥研修と研究	教育コーディネーターを配置し他園への出向で、当園教育 活動との検証が増え、保育スキルのインプット&アウトプッ トに効果を得ている。	A
⑦外部アンケート	全項目で概ね良好との評価だった。	A

※結果の表示方法 A 十分達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない
B 達成されている D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、特に池エリアや芝生エリアでも、
健康な心身と豊かな感性を育むことができた。園庭自由あそびの中では多種多様な植物や
昆虫等に触れる機会が多く、興味関心を高めている。

『美波らしい保育』の実践を教職員の心柱とし充実を図っている。園児の心と体と脳が
揺らぎ、エモーショナルな時空間になるよう教師が関り保育展開している。“知育・徳育・
体育”に特化した保育実践ではなく、日々の遊び（生活）の中で、自らが体感し『賢く・
優しく・逞しく』そして【朗らかな子どもたち】が育ち合えるように、教職員は努めた。

発達支援の必要な園児に加え、通常よりも手厚い支援（寄り添い）の必要な園児も多く、
全教員での共通認識のもと保育実践が進めた。

園児個々の成長値を考慮した保育、多岐にわたる保護者対応に適切に対応できる教員の
『現場保育力と人間力』向上に繋がる教員間のコミュニケーションも重視した。保育業務
全般において、【可視化できない部分にこそ大切な事が多く】あり、見落とさない・見過ご
さないよう努めた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
働き方改革に伴う、保育 と業務の質低下防止	勤務時間明細化の中でも、教職員間の連携やスキルアップを 重視し、多面的で良質な教育運営の形が整ってきた。今後も、 効率優先だけに捕らわれず、良質な保育を充実させる。
発達支援が必要な園児、 それに順ずる園児のサポ ート	公の機関や専門機関との連携をとり、且つ、保護者理解（面談 機会を増やす等）を得ながら、より良い成長に向かうよう取り 組む。
保護者・子育て世代への 幼児教育理解の促進	多様で親世代の思考也多岐にわたる現代。政府主導の「保育サ ービス」優先の風潮。子どもたちが将来に渡り、幸せな社会生 活を送れる為の“幼児教育・学校教育”を理解してもらえるよ う、在園生活の中で気づいてもらえるよう啓発する。

令和6年度 学校関係者評価書

(学)アソカ学園 美波幼稚園長 橋本憲幸
美波幼稚園 学校関係者評価委員会

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開する。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

恵まれた園環境の中で五感を通して遊び、『賢く・優しく・遅しく・朗らかに』育つように導く。その為に、教師は日常保育の環境構成や子どもへの関わり、保護者の信頼を獲得できるよう、常に自身の保育力と人間力アップに努める。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
① 保育の計画性	コロナ禍前の日常保育や教育行事を取り戻しながら、見直しを含め、尚一層の良質な保育を実践した。	A 美波らしい保育の更なる充実に向け、楽しい日常保育が繰り広げられました。
② 保育のあり方 幼児への対応	健康視診や成長度合いを熟慮するために、教職員間の情報共有に時間を十分とり、保育に努めた。	A 教職員間の情報共有が充実していて、担任以外の教員も園児個々の育ちを把握しています。
③ 教師として資質 能力、適正等	良質な保育運営を支える為の人間力(人間性と社会性)アップを心掛け、社会動向にも意識を向けながら保育に努めた。	A 美波の教育理念・園長先生の考え方を教職員が理解し園児と向きあっています。時折、朝バスの挨拶が気になる教員がいるので改善を願います。
④ 保護者への対応	コロナ禍前同様に参観会や教育行事等に来園してもらい、教育活動に対する理解を得ることができた。	B 緊急性があり重要な連絡はメールで届き、内容によっては紙媒体もあり、ありがたいです。
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	同学園内同士、相互に園を訪問し園児との交流を持っている。教員も他園の様子に触れ研修の一助となっている。	B 園児たちは、園外保育でアソカ他園に出かけることを楽しみにしています。
⑥ 研修と研究	教育コーディネーターを配置し他園への出向で、当園教育活動との検証が増え、保育スキルのインプット&アウトプットに効果を得ている。	A 教育コーディネーターの存在・役割に今後も期待しています。
⑦ 外部アンケート	設問の全てで概ね良好との評価を得た。	A 設問の全てで、否定的な意見もなく概ね良好と認めます。

* 結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

・恵まれた園環境で安全に楽しく生活することができ、特に池エリアや芝生エリアでも、健康な心身と豊かな感性を育むことができた。園庭自由あそびの中では多種多様な植物や昆虫等に触れる機会が多く、興味関心を高めている。

・『美波らしい保育』の実践を教職員の心柱とし充実を図っている。園児の心と体と脳が揺らぎ、エモーショナルな時空間になるよう教師が関り保育展開している。“知育・徳育・体育”に特化した保育実践ではなく、日々の遊び(生活)の中で、自らが体感し『賢く・優しく・遅しく』そして『朗らかな子どもたち』が育ち合えるように、教職員は努めた。

・発達支援が必要な園児に加え、通常よりも手厚い支援(寄り添い)の必要な園児も多く、全教員での共通認識のもと保育実践が進められた。

・園児個々の成長値を考慮した保育、多岐にわたる保護者対応に適切に対応できる教員の『現場保育力と人間力』向上に繋がる職員間のコミュニケーションも重視した。保育業務全般において【可視化できない部分にこそ大事な事が多く】あり、見落とさない・見過ごさないよう努めた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
働き方改革に伴う保育と業務の質低下防止	勤務時間明細化の中でも、教職員間の連携やスキルアップを重視し、多面的で良質な教育運営の形が整ってきた。今後も効率優先だけに捕らわれず、良質な保育を充実させる。
発達支援が必要な園児、順ずる園児のサポート	公の機関や専門機関との連携をとり、且つ、保護者理解(面談機会を増やす等)を得ながら、より良い成長に向かうよう取り組む。
保護者・子育て世代への幼児教育理解の促進	多様で親世代の思考も多岐に渡る現代。政府主導の「保育サービス」優先の風潮。子供たちが将来に渡り、幸せな社会生活を送れる為の“幼児教育・学校教育”を理解してもらえるよう、在園生活の中で気づいてもらえるよう啓発する。

令和 6 年度 自己評価書

令和 6 年 12 月 16 日

アソカ学園 追分幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる
子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。
○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』
○ 人と人との触れ合い ○ 家庭との連携
○ 期待や意欲を持つ

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取 組 状 況	自己評価
① 保育の計画性	計画の際に汎用性の高い週案にすることで、子どもの姿を反映できるよう心掛けた。	A
② 保育のあり方 幼児への対応	ヒヤリハットの集計を基に園内研修を行う中で安全管理の意識を高めている。	B
③ 教師として資質 能力、適正等	チームで役割分担しながら活動や研修を行うことで、園全体の一体感も感じられた。	A
④ 保護者への対応	アプリは頻繁に発信出来ているが、子どもたちの育ちがより伝わるように工夫したい。	B
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	四季を感じられるように、定期的に自然と触れ合う機会を設けたい。	B
⑥ 研修と研究	研修報告や園内研修を定期的に行い、内容が充実してきている事を実感している。	A
⑦ 外部アンケート	各項目「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」の平均が98%以上と良好であった。	A

* 結果の表示方法 A 十分達成されている
B 達成されている
C 取り組まれているが成果が充分でない
D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

3つの「つながる教育」～子どもも大人もワクワク！～

- 意欲がにつながる
明日の意欲につながるよう「お帰り」の際に、その日の振り返りや次の日の活動について話し合う時間を設けることで、子どもたちが主体的に関わってきていると感じている。
- 人とつながる
学園内の他の幼稚園へ出かけて、その園児や先生たちと交流する機会を多く持つことが出来た。園内では、PMT や GGT の参加人数も増え、保護者の方の協力を得ながら交流が出来た。また、サッカー教室や起震車体験などをする中で、関わってくれる方との交流が持てた。
- 保護者とつながる
活動の様子を伝えることは来ているが、その中で個々の子どもたちの育ちや子どもたちが感じている事などを伝えることの難しさを感じている。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育計画の活かし方	● 上記の明日への意欲をつなげるための試みの中で、保育者が子どもの姿をどう読み取っていけばいいのか、研修や園内での話し合いを繰り返し行っていく。 ● 子どもたちと一緒に保育の振り返りや話し合いをする時間の中で、子どもたちがより主体的に発言し、保育に関われるような研究をする。
自然との関わり	● 園外保育で自然との関わり持つ際に、連続して同じ場所に行くことでより深く自然物にかかわったり、四季を感じたりできるよう計画的に出かける。 ● 小さなビオトープだが、工夫したり、教師が関わる姿を見せたりすることで、興味を持って関わろうとする子がいるので、より活用していく。

令和 6 年度 学校関係者評価書

学校法人 無憂樹学園追分幼稚園学校関係者評価委員会

学校法人 無憂樹学園追分幼稚園長 田村都弥

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開します。

○健康なからだ ○おもしろい心 ○たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

『つながる教育』

○ 人と人との触れ合い ○ 家庭との連携 ○ 期待や意欲を持つ（楽しかった思いを期待へつなげる）

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
① 保育の計画性	計画の際に汎用性の高い週案にすることで、子どもの姿を反映できるよう心掛けた。	B	子どもたちの今の姿を大切に考えて、子ども主体の保育がなされている。	A
② 保育のあり方 幼児への対応	ヒヤリハットの集計を基に園内研修を行う中で安全管理の意識を高めている。	B	安全管理に対して園全体で高い意識を持っていることが分かった。	A
③ 教師として資質 能力、適正等	チームで役割分担しながら活動や研修を行うことで、園全体の一体感も感じられた。	A	職員全体の雰囲気が良く、担当クラス外の子の情報もよく共有がとれている。	A
④ 保護者への対応	アプリは頻繁に発信出来ているが、子どもたちの育ちがより伝わるように工夫したい。	B	アプリの利用が効果的。行事や面談の際には、意図的に話せる時間を確保している。	A
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	四季を感じられるように、定期的に自然と触れ合う機会を設けたい。	A	園外保育で季節の自然に触れる機会を設け、園内にも自然環境を取り入れている。	A
⑥ 研修と研究	研修報告や園内研修を定期的に行い、内容が充実してきている事を実感している。	A	園外での研修内容も職員間で共有し、実践につなげるよう学びを大切にしている。	A
⑦ 外部アンケート	各項目「あてはまる」もしくは「大体あてはまる」の平均が98%以上と良好であった。	A	ほとんどの保護者が満足している。保護者への伝え方で、より良くなると感じた。	A

＊結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが成果が充分でない

D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

3つの「つながる教育」～子どもも大人もワクワク！～

● 意欲がつながる

明日の意欲につながるよう「お帰り」の際に、その日の振り返りや次の日の活動について話し合う時間を設けることで、子どもたちが主体的に関わってきていることを感じている。

● 人とつながる

学園内の他の幼稚園へ出かけて、その園児や先生たちと交流する機会を多く持つことが出来た。園内では、PMT や GGT の参加人数も増え、保護者の方の協力を得ながら交流が出来た。また、サッカー教室や起震車体験などをする中で、関わってくれる方との交流が持てた。

● 保護者とつながる

活動の様子を伝えることは来ているが、その中で個々の子どもたちの育ちや子どもたちが感じている事などを伝えることの難しさを感じている。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育計画の活かし方	- 上記の明日への意欲をつなげるための試みの中で、保育者が子どもの姿をどう読み取っていいのかわかるのか、研修や園内での話し合いを繰り返し行っていく。 - 子どもたちと一緒に保育の振り返りや話し合いをする時間の中で、子どもたちがより主体的に発言し、保育に関われるような研究をする。
自然との関わり	- 園外保育で自然との関わり持つ際に、連続して同じ場所に行くことでより深く自然物にかかわったり、四季を感じたりできるよう計画的に出かける。 - 小さなピオトープだが、工夫したり、教師が関わる姿を見せたりすることで、興味を持って関わろうとする子がいるので、より活用していく。

令和6年度 自己評価書

令和7年2月5日

アソカ学園 百花幼稚園

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる

子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開 子どもたち一人ひとりの「自分らしさの追求」

*健康なからだ *おもいやりの心 *たくましい創造力

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

教職員で、幼稚園教育に育みたい「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力・人間性」を共通理解し、具体的な子どもたちの姿と繋げていき、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を考慮しながら教育を進めていく。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取 組 状 況	自己評価
① 保育の計画性	活動のつながりを継続させながら、連続した子どもたちの発達を配慮した計画をし、活動が展開することができた。	A
②保育のあり方 ・幼児への対応	一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもたちが安心できる環境を用意し、子ども主体の活動が展開できる援助を心掛けてきた。	A
③教師として資質 能力、適正等	教師としての自覚と責任感を持って行動できている。 教員としての資質、能力を教員全体で高める努力をし、教育活動のねらい、内容を共有、共通理解している。	B
④保護者への対応	「れんらくアプリ」を使い、日々の園児の様子を見てもらい、幼稚園の活動の意義や子どもの成長を伝えている。	B
⑤地域の自然や社会 との関わり	昨年と比べてコロナ感染の影響が少なくなり園外保育等で出かけることはできるようになったが、小学校と十分な関わりが持てなかったことが残念であった。	B
⑥研修と研究	浜私幼・県私幼の研修も「ズーム」で行うことが多くなったが、制限のある中でも参加することができた。	A
⑦外部アンケート	回答率は92%と去年と比べてあがりました。ほぼ肯定的な回答が占めていました。	A

*結果の表示方法 A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが成果が充分でない

D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

※子どもたちが安心して活動に取り込めるように、教師が肯定的な言葉がけを心掛けて、子どもたちの長所をたくさん捉えるように心がけている。子どもたちも肯定的な言葉がけをしてもらうことで安心して園生活を過ごしている。

※子どもたちが自分で判断して行動できるアクティブラーニング的（主体的・対話的・深い学び）援助を心掛けた。

※今年度もコロナ感染予防のために活動が制限されることも多くあったが、活動内容を再考できる良い機会と捉え、活動時期、内容、量を工夫することができ、成果を感じることができた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者が安心して園児を登園させることができる	保護者が安心して園児を登園させることができる情報や対応をしていく。アプリ等でも、必要な情報を伝達した。
幼児教育において育みたい資質・能力の明確化	教育要領に基づき、資質・能力を育むことを明確化することで、具体的な子どもたちの育つ姿を考察していく研修を継続し、教師全員で共通理解を図りながら教師の援助や環境設定を見直し、毎日の保育に生かしていくこと。

令和6年度 百花幼稚園学校関係者評価書

令和7年2月5日

1 幼稚園の教育目標

日本のよい伝統を守り、21世紀を心豊かに築きあげる 子どもの自由と自律ある望ましい教育を展開 子どもたち一人ひとりの「自分らしさの追求」 ○健康なからだ ○おもいやりの心 ○たくましい創造力		
---	--	--

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

教職員で、幼稚園教育に育みたい「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力の基礎」「学びに向かう力・人間性」を共通理解し、具体的な子どもたちの姿と繋げていき、幼児期の終わりまでに育って欲しい「10の姿」を考慮しながら教育を進めていく。

評価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価	学校関係者評価委員会
① 保育の計画性	活動のつながりを継続させながら、連続した子どもたちの発達を配慮した計画をして、百花幼稚園らしい活動が展開することができた。	A 園児の活動を最優先に考えながら、できる限りの企画を立てて実践できた。父母の会は、読み聞かせ・夏祭りの夜店や餅つき等で園児との交流ができた。
② 保育のあり方 幼児への対応	一人ひとりの子どもに寄り添い、子どもたちが安心できる環境を用意し、子ども主体の活動が展開できる援助を心掛けてきた。	A 園児のやりたいことや表現の自由を認めることを大切にして、任せたり、見守ったりして程良い援助を心掛けた。
③ 教師として資質 能力、適正等	教師としての自覚と責任感をもって行動できている。 教員としての資質、能力を教員全体で高める努力をし、教育活動のねらい、内容を共有、共通理解している。	B 通常教育活動はもちろんのこと、様々な行事にも園児の活動をイメージして、細心の注意を払って活動を実践できた。 また、学年団の計画、相談を重視して取り組むと共に、職員全体での活動も共同・協力的に実践できた。
④ 保護者への対応	「れんらくアプリ」を使い、日々の園児の様子を見てもらい、幼稚園の活動の意義や子どもの成長を伝えている。	B 「れんらくアプリ」は、ほぼ毎日、園児の成長や特徴的な活動の様子を詳細に伝達できた。また、気になる園児の様子は、的確に電話連絡できた。
⑤ 地域の自然や 社会との関わり	昨年に比べてコロナ感染の影響が少なくなり園外保育等で出かけることはできるようになったが、小学校と十分な関わりが持てなかったことが残念であった。	B 園外保育が毎学期実施することができた。 中学校3年生の家庭科の保育実習を受け入れたり、大根堀りを保護者の実家と協力して地域の畑で行ったりして円滑な実践ができた。
⑥ 研修と研究	浜私幼・県私幼の研修も「ズーム」で行うことが多かったが、制限のある中でも参加することができた。	A アソカ学園での研修が、昨年より学年会と題して、通常保育・行事に向けての課題や実践後の反省会を今後に生かせる話し合いが活発になった。
⑦ 外部アンケート	回答率は92%と去年と比べて変化はなく、ほぼ肯定的な回答が占めていました。	A 肯定的な回答が多いため、否定的な意見にも目を向けて、今後の実践に生かすよう考慮した。

*結果の表示方法 A 十分達成されている B 達成されている C 取り組まれているが成果が充分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

※“Being myself”(になりたい自分になる) ①人生100年を生き抜く時代 ②最初の教育の場所をアソカ学園 百花幼稚園 ③「になりたい自分づくり」「じぶんらしさ」… <u>こどもの個性を大事に</u> アソカ学園 「あそびから創造へ」 ◎自主性・思考力・創造性・表現力・対話力・協調性を育む仕掛け ・こどもができたという達成感・充実感 ・たくさんの試行・失敗体験が成功を生む ・職員一同…共通理解 → 支援・保育して 最善を尽く! ・保護者と共に、こどもの成長に喜びを感じる教職員 ※活動内容を再考できる良い機会と捉え、活動時期、内容、量を工夫することができ、成果を感じることができた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保護者が安心して園児を登園させることができる	7月上旬に水の事故があり、更に安全管理について全職員で危機意識を十二分にもちながら楽しく遊んで子どもたちが成長できる保育を心掛けている。 行事の見直しや精選を行って、更に園児も保護者にも有意義な学園運営を構築していきたい。 行事だけでなく、日々の子供の成長をアプリやホームページにて紹介することで、運営の充実を図りたい。
幼児教育において育みたい資質・能力の明確化	教育要領に基づき、資質・能力を育むことを明確化することで、具体的な子どもたちの育つ姿を考察していく研修を継続し、教師全員で共通理解を図りながら教師の援助や環境設定を見直し、毎日の保育に生かしていくこと。 アソカ学園の理念である「遊びから創造へ」と子どもが将来に向けて育てるべき資質や思考力・協力性をさらに高める保育の実践にあたりたい。